

第14回産業日本語研究会・シンポジウム

文章書くのに国語辞典は要るのか

国語辞典編纂者

『三省堂国語辞典』編集委員

飯間 浩明

日時………2023年2月9日(木)13:05～13:45

開催方法…オンライン配信

文章書くのに国語辞典は
要るのか



飯間浩明

問題設定



問題設定

■ 文章書くのに国語辞典は要るのか？

→ 要らない！

- 表記の確認 …… 漢字仮名変換
 - 百科語の意味 …… ウィキペディア
 - 新語の意味 …… 実用日本語表現辞典(ウェブサイト)
 - 語源 …… 語源由来辞典(ウェブサイト)
- その他「コトバンク」「weblio」「Yahoo!知恵袋」……

問題設定

■ 文章書くのに国語辞典は要るのか？

→ 要らぬよ。まあ慌てずに…

- 表記の確認 …… 漢字仮名変換
 - 百科語の意味 …… ウィキペディア
 - 新語の意味 …… 実用日本語表現辞典(ウェブサイト)
 - 語源 …… 語源由来辞典(ウェブサイト)
- その他「コトバンク」「weblio」「Yahoo!知恵袋」……

アシスタント・プロフェッサー

百科語の意味

ページ ノート

ウィキペディアより

出典: フリー百科事典『[ウィキペディア \(Wikipedia\)](#)』



アシスタント・プロフェッサーに対する日本の職階については「[助教](#)」をご覧ください。

アシスタント・プロフェッサー (Assistant Professor)とは、[アメリカ合衆国](#)、[カナダの大学](#)における教授職の一つ。[教授](#) (Professor)、[准教授](#) (Associate Professor)に次ぐ職位にあたり、「[助教授](#)」^{[1][2]}または「[助教](#)」^[3]の訳語があてられることもある。日本の大学における[助教](#)の英文名称は、[東大](#)含む多くの大学で、米国の教授職を考慮した検討・議論の結果、Assistant Professorと正式に規定されている^[4][\[独自研究?\]](#)。

概要 [編集]

博士 (Ph.D.) を取得後、上手く仕事を見つけるとアシスタント・プロフェッサーになれる。アシスタント・プロフェッサーは大体はテニュアトラックと呼ばれる終身雇用トラック形態である。6年の厳しい審査に合格すると、終身雇用取得（退職年齢がなく一生働ける権利）とアソシエイト・プロフェッサー（准教授）に昇進する。

欧米では全米の優秀な博士号所持者が数少ないポジションを争い競争率が高く、Academic lottery（アカデミックの宝くじ）と呼ばれているくらいなるのが非常に困難。理系分野では博士号取得後、3-7年間のポスドクといわれる研究員期間を終え、運がよければアシスタント・プロフェッサーになれる。日本でも同様である。



真逆

読み方: まぎ ゃく

正反対の、180度反対の、などという意味の俗語、または口語表現。

新語・新用法の意味

■ 「真逆」を用いた学術文献

言語による不平等の問題は社会の公正の観点から看過できず、放っておくのでは状況は改善しないという認識では一致しているのである。ただ、その対応の方向性が真逆なのである。

具体的には、可逆性が低い動作を表す動詞(unfire/undischarge, unsuggest/unpropose)を使い、その動詞が示す動作と意味的に真逆の状況を示すコンテクストを用意しました。

〈正-反-合〉の進行には、真(理)の関係をどこまでも保存する形式論理の展開とは真逆の、〈正〉と〈反〉から、〈合〉へとジャンプするその飛躍に価値が置かれるのである。

へちまの語源・由来

語 源

語源由来辞典より

へちまは、果実に纖維があるため、「糸瓜（イトウリ）」と呼ばれていた。

やがて、イトウリの「イ」が略されて「トウリ」とも呼ばれるようになり、漢字で「唐瓜」の字も当てられた。〔略〕

しかし、頭の「イ」が略された「トウリ」の頭「ト」を更にひねった説は、こじつけの感が強いため、現在は有力とされていない。

その他、へちまの語源には、何本もの纖維をまとめたような実がなることから、「筋実（ヘスヂミ）」の意味という説があり、こちらの方が有力と考えられている。

馬

源

「薯じやがたらいも」は

（強）ヤガタ

白

語

「芋やつがしらいも」は

（連）芋

佛

「手諸つくねいも、づくいも」は

（強）手諸

紫芋たうのいも

（唐之芋）

（我）

瓜うりは

（潤）（ひ）

（實）

越瓜しろうりは

（白瓜）

の義。

絲瓜へちまは

（綜筋實）の義。

南瓜かほちや、とうなす、ほうぶらは

（ボウブラン）の原名の轉

茄子なすびは

（丹藍墨實）の義。

醤瓜あをうり、まるづけは

（青瓜）の義。

胡蘆ひさご、なりひさごは

（柄杓形）の義。

なりひさごは

（生り柄杓）の義。

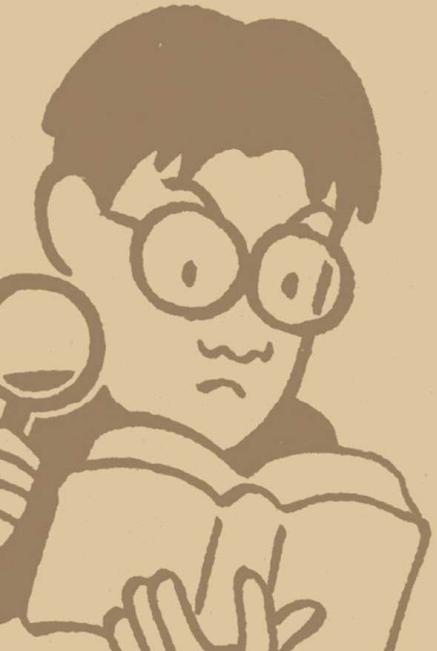
麻あさは

（絲種草）の義。

蓖麻たうごまは

（唐脂麻）の義。

林齋臣『日本語原学』(1932)より。
この本はこじつけが多い。



パソコンを使用？ 利用？ —類義語の区別—

利用と使用の違い

「利用」と「使用」はどちらも「物や人の機能を生かして目的達成に役立てること」を意味する語です。そして、「利用」は「あるものの特性を生かして役立たせること」、「使用」は「あるものを役立てること」を指す意味で使われます。

「使用」はあくまでも、そのもの本来の役割が果たされる際に用いられます。たとえば、辞書を読んで単語の意味を調べるときは「辞書を使う」となります。しかし、「辞書の重さを利用してシワ伸ばしに使った」という場合なら「辞書を利用した」と表現できるでしょう。

「辞書を利用して調べる」とは言わないか？

類義語の使い分け

〔3〕編み物で、つなぎ合わせて大きな作品とするための、一模様の単位。

もち！ いる

用いる
あむちる

【動上一】①能力や働き

を認めて使う、登用する、ハテナンを用いる」

【2】意見などを取り上げる
採用・採用・登用・任用
起用する。立案して先一向こ用ひうれなハ一

建築材として用いる「刃物を用いる」

漢利用・使用・活用。

『すみずみにまで意を用いる』
⑤ある手段、態度を

とる。使う。『奇襲戦法を用いる』
↓表

部下の是

使う	使う	使う
使う	使う	使う
X	X	案部下の提
X	一つ 今日はだいぶ お金を使う	X
X	う神経 仕事を	X
X	う新外 人野 をに	X

【もちうた 持ち歌】 歌手などが、自分の歌として持つてゐる曲。パリトリ。『持ち歌が多く』

持つてゐる曲 持たれて歌が多いため

ちに次第にその重さを感じるようになること。「道中が長くて荷が持ち重りしてきた」

中が長くて荷が持ち重りしてきた。
ハミ 寺^う昇り もちか

持ち帰り 持ち帰る 第五
特に、買った品物をその場で食べたり、配達してもらったりせず、自分で持ち帰ること。『お持ち帰り』なりますか』▽(動五)持ち帰る『仕事を家に持典帰

10

「**ちか・ける**」持^たかに^る（持^た掛け）
「動下一」話をして、働きかける。「相談を持ちかけ」
語例解

「もちーがし

ちーがし 餅菓子ワシグ 糯米もち、うるち、
かたくりなどの粉を原料に用いた和菓子。大根カブか
しわもちなどの類。

「もちーかぶ

持ち株

所有している株。

持
現会

類義語の使い分け

**しょう「使用」(名・他サ)

使うこと。

「—法・—感〔=中古品の感じ〕がある」
区別 自分のパソコンは「**使用する**」と言い、
公共のパソコンは「**利用する**」と言う。単に
使うかどうかを問題にする場合は「**使用**」、
公共物などを便利に使う場合は「**利用**」が
ふさわしい。

●しょうしゃ「使用者」(名)

①それを使う人。

「製品の—」=ユーザー

②給料をはらつて人を働かせる者。(→労
働者・被^ひ使用者)

●しょうにん「使用者」(名)

人の家や店などで使われる人。
「住み込みの—」

類義語の使い分け

**ほん「本」

一 ほん(名)

- ① 文章・絵などをかいたり印刷したりした紙のたばを、厚みが出るくらい重ねてとじ、きちんとした表紙をつけたもの。

「—を読む・—を書く・—を出す・漫画—

まんが

区別 「本」は最もふつうの言い方で、広く使う。「書籍」は商品や情報媒体として、雑誌・テレビなどと対比して使う。「書物」は読んで学んだり楽しんだりする場合に使う。「図書」は部屋に収めるものや、内容によつて分類したものを使う。

② 「ホン」(演劇・映画)脚本^{きやく}。台本。

「—打ち」(脚本打ち合わせ)

③ 「視覚語」(野球)↑本塁^{ほんりゆ}。

「三—一間・—盜^う」

二 ほん(連体)(文)

① この。

「—会・—曲・—県・—大会」

② 自分をさすことば。

「—大臣」(大臣としてのわたくし)

③ きょう(の)。今^こ。

「—八日未明」

三 遺



『三省堂国語辞典』第8版
(アプリ「辞書by物書堂」)

く品

ポワレ >

類義語の使い分け

**ば

— (接助)

- ① 仮定の条件をあらわす。もし……なら。
⋮だとすれば。

「今から行け — 間に合う・命がおしけれ — 立ち去れ」

! 仮定形につくが、文語動詞では「暇まいとあらば行かん」「時間があれば行こう」のように未然形につく。文語形容詞では、古く「命おしくは「॥おしければ」立ち去れ」のように連用形に副助詞「は」をつけたが、のちに「おしくば」と「ば」を使う形も現れた。

区別 仮定の用法では、「ば」は「そこに行けば会える」のように、当然そうなる、という場合に使う。「と」は「そこに行くとあぶない」のように、どうなるかわからない、という場合に使う。「たら」はやや話しことば的で、どちらの場合にも使う。「入力が終わつたらボタンをおしてください」は、「入力が終われば / 終わると」⋮「とは言いにくい。この「たら」は「⋮したあとに」の意味で、「ば」「と」にはこの意味がない。

- ② ある条件のもとでは、いつもそうなることをあらわす。

「春が来れ — 、花がさく」



『三省堂国語辞典』第8版
(アプリ「辞書 by 物書堂」)

軟らかい肉？柔らかい肉？

—「異字同訓」の問題—



「異字同訓」の問題

やわらかい・やわらかだ

126

【柔らかい・柔らかだ】ふんわりしている。しなやかである。穏やかである。

柔らかい毛布。身のこなしが柔らかだ。頭が柔らかい。柔らかな物腰の人物。
物柔らかな態度。

【軟らかい・軟らかだ】(↔硬い)。手応えや歯応えがない。緊張や硬さがない。

軟らかい肉。軟らかな土。地盤が軟らかい。軟らかく煮た大根。軟らかい表現。

『「異字同訓」の漢字の使い分け例（報告）』（文化審議会国語分科会 2014）

- 「ジューシーで（軟らかい・柔らかい）肉」？
- 「生肉が（軟らかい・柔らかい）」？

「異字同訓」の問題

- ルールはそもそも存在しない
- しかし、用字を統一したいのは人情
(美観の点からも)
→用例を基に、より詳しい区別を辞書で提案する
(ルールを主張するのではなく、参考に供する)

「異字同訓」の問題

←やわらかい 「柔らかい」かいやはら (形)

- ①ものがふれると、それにしたがつてよく曲がるようすだ。

「ヤナギの枝」

(↑硬たい・堅たい)

- ②軽くふわふわして、さわると気持ちがいい。

「髪みか・毛布」

(↑硬い)

- ③「からだが」いろいろな形によく曲がるようすだ。

「身のこなし」

(↑硬い)

- ④簡単に(かみ)切れるようすだ。

「パン・ジュースで一肉」

(↑固い)

- ⑤「考えが」ものごとにとらわれない。
「発想・頭を柔らかくする」

(↑固い)

- ⑥「人に」きびしく当たらない。やさしい。

「風・一日ざし・表情」

区別 ↓ 柔らか。

く 軟らかい

軟らか >

「𠂊の辞書のきまり」より

ジャー(arranger)。」は、「アレンジをする人」という意味です。

「異字同訓」の問題

18 書き分け注意

意味の上でまぎらわしい同音語、意味によつて漢字を書き分けることばは、一か所にまとめ、見出しの上に ←→ をつけます
〔←から → までが、ひとまとまり〕。

たとえば、意味の似た「**こうづ げん**」「**広原**」「**こうづ げん**」「**荒原**」「**こうづ げん**」「**高原**」は、画数順では離れた位置に並びます。これでは比較に不便なので、項目を連続させて、書き分け注意の記号をつけています。

「柔らかい」と「軟らかい」など、意味による漢字の書き分け〔=異字同訓〕は、この辞書の第二版〔一九七四年〕以来、類書にさきがけてくわしく示しています。今回の版でも、その後刊行された文献や使用実態をふまえて、さらに検討した結果を示します。

19 基本語

この辞書の項目の中から、日常生活で多く使われる基本語を一一〇〇〇項目選んで示す。

「異字同訓」の問題

*かた・い 「固い」(形)

- ① 強い力が加わっていて、形が変わりにくい。

「パンの生地^{じき}を固く練る・—ふとん・まだつぼみが—」

(↑柔^わらかい)

- ② 水分が少なくて／なくて、形が変わりにくい。

「肉が—・〈柔らかいごはん／軟^わらかいおかゆ〉が固くなる」

- ③ くつついていて、動かない。

かた・い 「堅い」(形)

- ① 「木・炭などの」中身がしつかりつまって、形が変わりにくい。たわみにくい。

「木材」

(↑柔^わらかい)

- ② 手がたい。堅実^{じつだ}。

かた・い 「硬い」(形)

- ① 「金属・石・紙など、いろいろの物質について」形の変わりにくい度合いが高い。硬度^{こう}が高い。

「ガラス」

- ② 「文章などが」むずかしくて、自然でない。

「異字同訓」の問題

*き・く 「利く」

一 (自五)

① ジゅうぶんにはたらく。

「自転車のブレーキがー・目がー人〔=目利き〕・わざびの利いたすし・機転がー・ユーモアがー」

② 思いどおりになる。

「行動の自由がー・うでが利かなくなる」

③ 可能だ。

「修理がー・保険がー〔=利用できる〕」

二 (他五)

① ものを言う。

「口をー〔↓「口」の句〕」

② ↓ 聞く 一 ⑥。

利かない・利かん気。

→き・く 「効く」 (自五)

「時間とともに」へはたらき／効果／があらわれる。

「薬がー・暖房だんがー〔『利く』とも書く〕・宣伝がー」



「異字同訓」の問題

*であ・う 「出会う・出[×]逢う」_{ふあ} (自五)

①人と、たまたま顔を合わせる。

「知人にばつたりー」

②知り合う。

「運命の人とー」

③↓出合う②。



*であ・う 「出合う」_{ふあ} (自五)

①たまたまそれを〈見かける／体験する〉。

「キツネにー・事故にー」

表記

よくない場合は「出遭う」とも。

②「出合う」運命的に、それを知る。
「ジャズとー」

③ある場所でいつしょになる。

「本流と支流がー」

④「古風」出てきて(敵の)相手をする。
「くせ者だ、出合え、出合え」



的を得る？ 的を射る？ —各種のモヤモヤを解消—

モヤモヤを解消

少なくとも、向しニュースについて、翌朝の
い芸人・加藤浩次の発言は、←

国の中アリパーカの演出は) 「これ、日本人の感覚ではちよ
るんですけども」 ←

ほど~~的を得た~~《「当を得る/的を射る」の誤用》コメント

当を得たコメント

的を射たコメント

選択 : Tab

先頭を確定 : Shift+Enter

訂正候補 | X



漢字かな変換では必ず叱られる

「的を得る」18世紀の用例

あく句

番匠ばんじやうが樅もみの小ぶしを挽ひきかねて
片はげ元山かたはげやまに月を見るかな ばせ芭蕉ば蕉あ
「元たる山に」と初はじめて云起いひおこりたる句なり。
暫吟しばしぎんじて、箭はなたずを不放やうやく、漸おか的きよくを得たり
と独笑して、「片」の字を置おかれたり。
おもへば一片きんぎょく変じて金玉かなぎょくの千
樹きなり。〔下略〕

前句

淡々撰、富天編『かはづの海』(1740[元文5]年刊)
国立国会図書館デジタルコレクションより

番匠ばんじやうが樅もみの小ぶしを挽ひきかねて

片はげ元山かたはげやまに月を見るかな ばせ芭蕉ば蕉あ

「元たる山に」と初はじめて云起いひおこりたる句なり。
暫吟しばしぎんじて、箭はなたずを不放やうやく、漸おか的きよくを得たり

と独笑して、「片」の字を置おかれたり。

おもへば一片きんぎょく変じて金玉かなぎょくの千
樹きなり。〔下略〕

モヤモヤを解消

まと、「的」(名)

①「弓の矢／たま」を当てる目じるしとなるもの。

②目標。

「攻撃^{こうげき}の一ーとなる・ーをしほる」

③一か所に集まるところ。

「注目のー」

④めあて。急所。要点。

☆的を得る(句)

①うまくまとに当てる。

②大切なところを正確に指摘^{さしざい}してする。急所をつく。正鵠^{こくせん}を射る。的を得る。

「的を得た質問」

●的を得る(句)

↓的を得た表現

「的を得た表現」

!「的を得る」「的を得る」とも、特に戦後広まつた言い方。「得る」は「要領を得る」などと同様、「うまくとらえる」の意味。同義語「正鵠^{こくせん}を射る／得る」も一通りの言い方がある。

モヤモヤを解消

しきい「敷居」る〔名〕

- ①門の下、または、障子・ふすまなどの下に敷く檜木。
②気軽に近づくのをじやまするかべ。「研究の一」が下がる・クラシックの一が低くなる」

● **☆敷居が高い** 句「||敷居が高くなつた感じがする」

①義理を欠いたりして、その人の家に行きにくい。

「『ぶきたしたのでー』」

②近寄りにくい。

「庶民みんにとつて お役所はー」

③気軽に体験できない。

「オペラはーと思ひがちだ」

▼①は江戸どえ時代から、②は戦前から、③は一九八〇年代にはもうあつた用法。(→ 敷居が高い)

区別「敷居が高い」は、①～③いずれも、心理的な抵抗ていが大きい場合に使う。

「ハードルが高い」は、心理的な抵抗はなくとも、実現がむずかしい場合に使う。「敷居が高い③」が新しい用法であるため、「ハードルが高い」と言いかえることがあるが、これもまた新しい用法。

モヤモヤを解消

まぎやく 「真逆」(名・ナダ)

まつたくの逆。正反対。

「自分とは一の性格」

〔二〇〇〇年以降に広まつたことば〕

まさか。

＜マキヤベリスト

巻物 >



『三省堂国語辞典』第8版
(アプリ「辞書 by 物書堂」)

モヤモヤを解消

「やぶ医者」の語源は、養父の名医？！

養父市ホームページより

更新日：2020年07月10日



名医と呼ばれた養父の「やぶ医者」

江戸時代の俳人で松尾芭蕉の門弟である森川許六(もりかわきよりく)という人が編纂した「風俗文選」(ふうぞくもんせん)という俳文集があり、この中に「薮医者ノ解」と題する一節があります。



モヤモヤを解消

やぶいしゃ 「(×數)医者」(名)

診療しんりのへたな、たよりにならない医者。やぶ。

由来鎌倉くらま時代から「やぶ医師しそう」の形で使われた。「やぶ」には「いなか」の意味があり、関連が考えられる。「江戸どえ時代、養父ぶや〔=今の兵庫県の地名〕にいた医者から」という説は、時代が合わない。

く やぶいり

やぶ >

モヤモヤを解消

さ よう 「= 然様 うさよ」

日 (ナダ)
〔感〕

「古風」そ�だ。しかり。「改まつた言い方」

表記 「..左=様」とも書いた。

● さ よう し か らば 「(△然様△然らば)・..左= 様△然らば」(接)

「古風」それならば。「武士が使つたかたく
るしい言い方」

「—ごめん」

● さ よう な ら 「= 然様 うさよなら」

■ (感)

別れるときのあいさつ。さよなら。

「—、またあした・みなさん、—」

! 人によつて「もう会わない感じがする」「目上に使いにくく」などの理由から、「親しく」じやあね」「改まつて」失礼します」などを多く使うが、「さようなら」もついであり、ふつうに使える。

由来 「さようなら、ご機嫌 きげ よう」「= それならば失礼しますので、お元気で」などの後半が略されたもの。江戸どえ時代からある。

二 (名・自サ)

↓ さ よ な ら 二

表記 「..左=様なら」とも書いた。

作用

私が国語辞典を作る理由（まとめに代えて）

- 文章を書くとき、ネットの情報が必ずしも信用できない
- いつも迷うことがらがネットの情報で解消できない
- ことばの疑問について調べたことを集積して、いつでも参照できるようにしておきたい

→自分たちで国語辞典を作るしかない

私自身は、文章を書くとき、自分たちで作った辞書を何度もとなく参照する。文章を書くのに国語辞典は必需品。